

## オーストラリア研修での経験

工学部 建築学科 2年

私は今回、語学力向上と異文化理解を深めることを目的としてオーストラリア研修に参加しました。これまで教科書を中心に英語を学んできましたが、実際に現地で英語を使いながら生活する経験を通して、より実践的な力を身に付けたいと考えたためです。また、私が住んでいる日本とオーストラリアの文化の違いに興味があり、価値観の違いや伝統に触れてみたいと思ったのがこの研修に参加した理由です。

研修中は、現地の教育機関で授業を受けながら、多国籍の学生と交流する機会がありました。授業はすべて英語で進められ、最初は何言ってるかわからないし、他の国の人達は先にいた人たちばかりなので少しは理解して質問にもどんどん答えて、私は正直、初日で帰りたくなかったのを今でも覚えています。最初だから一緒に来た子たちともすごく仲いいというわけではないので、一人で悩むしかなかったです。しかし来ちゃった以上やるしかないなと思って授業受けました。間違いを恐れずに発言することを意識したり、積極的にホームステイの家族にいっぱい今日の出来事を話したりすることで、徐々に会話に参加できるようになりました。また、日常生活においても英語を使う場面が多く、買い物や移動、食事の注文などを自分で行うことで、実践的な英語力を養うことができました。

さらに印象に残ったのは、文化の違いです。オーストラリアでは、多様な文化背景を持つ人々が共に生活しており、お互いの違いを尊重する姿勢が自然と根付いていました。そのため、自分の意見をしっかりと持ちながらも、相手の考えを受け入れる柔軟さが求められると感じました。この経験を通して、コミュニケーションにおいては言語だけでなく、相手を理解しようとする姿勢が重要であることを学びました。

今回の研修で身に付いたのは、語学力だけではなく、自分から積極的に行動する力や、新しい環境に適応する力も大きく成長したと感じています。特に最初は不安だった英語の授業や家族とのコミュニケーションだってあきらめずに毎日一生懸命やって自ら行動して行くことで、最終的には苦だったことも楽しくて帰りたくないになったこととても大きな変化だと思っています。

今回の経験を今後活かすためには、継続して英語学習に取り組むことが重要であると考えています。研修で得た感覚を忘れず、リスニングやスピーキングの力をさらに高めていきたいです。また、異文化に対する理解を深める姿勢を持ち続けることで、将来さまざまな場面で活躍できる人材になりたいと考えています。

私が担当した研修内容としては、現地での授業の様子や生活環境についてまとめました。授業では、発言を重視するスタイルが特徴的であり、日本との違いを感じました。また、学校の設備や学習環境も充実しており、学生が快適に学べる工夫がされていました。これらの点について、写真なども活用しながら具体的に

伝えることを意識しました。

今回のオーストラリア研修は、語学面だけでなく人間的にも成長する貴重な機会となりました。

この経験を一時的なものにせず、今後の学習や生活の中で活かしていくことで、自分自身のさらなる成長につなげていきたいと考えています。もし、海外研修行きたいって少し考えてる人は行った方がいいと伝えたいです。お金もかかるし時間も必要だけど、行く価値あったと思っています。最初はずらいかもしれないけど最後帰りたくないなって絶対に思うと思います。自分自身も成長できたので、行ってみたいと思います。



## オーストラリア語学研修で学んだこと

保健医療学部 看護学科 2年

私が今回研修に参加した理由は、英語能力を向上させたかったためだ。また、異文化に触れることで自分の価値観や視野を広げたいと考えた。さらに、サーフィンやホームステイなど、日常では体験できない多様なプログラムに魅力を感じたためである。

研修期間は2週間と短期間であったが、英語でのコミュニケーション能力の向上を実感することができた。参加前は、自身の英語力に自信がなく、円滑な意思疎通は困難であると考えていた。しかし、実際には簡単な単語や表現であっても、積極的に話しかけることで相手に意図が伝わり、コミュニケーションが成立することを学んだ。この経験から、語学力の高さだけでなく、自ら行動する姿勢の重要性を強く感じた。そのため、英語に自信がなくても、この研修に興味があるなら参加してみたいです。

特に印象に残っているのは、ホームステイだ。私のホストファミリーはとても活動的であり、毎日朝と夕方共に犬の散歩をそれぞれ1時間し、休日は2時間ほどサイクリングを行っていた。週に一回、友人を家に招き、ヨガに似た運動を30分程度した後にお酒と軽食をたしなんでおり、健康維持と人間関係の構築を両立している点が印象的であった。このことから、健康意識の高さを感じた。また、家事は家族で分担されており、料理も交代制で行われていた。日本における「母親が家事を担う」という固定的な役割分担とは異なり、家族全員で生活を支える姿勢が見られた。これらの経験から、文化の違いだけでなく、家族の在り方や価値観の多様性について学ぶことができた。ホストファミリーにお好み焼きをふるまった際には、日本の家庭料理として紹介しながら一緒に調理を行った。初めての味に興味を示し、美味しいと喜んでもらったことで、食を通じた文化交流の楽しさを実感した。休日は、ショッピングやコフスハーバーの観光名所である、ビックバナナに行き、アトラクションを楽しんだ。

この研修を通し、異文化、外国語を学ぶ楽しさに気づくことができた。これからは、他国への渡航にも積極的に取り組み、さらに多様な文化や価値観に触れていきたいと考える。そして、異なる背景を持つ人々と関わる中で得た柔軟な視点を、今後の学習や将来の活動に生かしていきたい。



## オーストラリア研修を終えて

工学部 情報工学科 3年

今回、私は本オーストラリア研修において、14日間を通して自身の英語スキルを客観的に把握し、TOEICなどの資格試験対策の一環とすることを目的として参加した。また、現地の人々との交流を通して、コミュニケーション能力および語学力の向上を図るとともに、異文化環境に適応する力を身につけることも目的としていた。将来的には、日本語以外の言語を用いて主体的に思考し、相手に配慮しながら行動できる力を活かせる職業に就きたいと考え、本研修への参加を志望した。

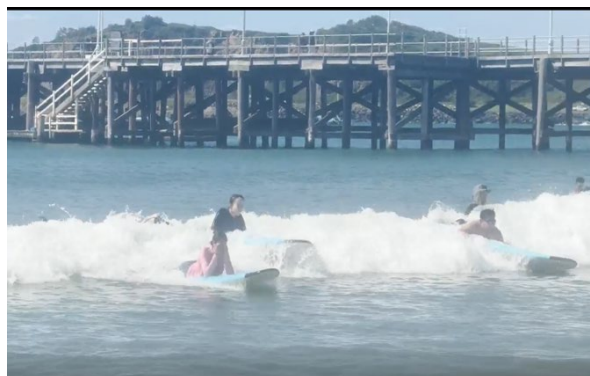
本研修で特に学んだことは、積極的に他者と意思疎通を図る姿勢の重要性である。たとえ文法や表現に誤りがあったとしても、その都度修正しながら伝えようとする姿勢が大切であり、その積み重ねによって実践的な語学力が身につくことを実感した。

研修初期、特に2日目と3日目は、TAFEでの授業にも慣れず苦戦した。しかし、7日目頃からはホストファミリーや現地の人々との交流を重ねる中で、徐々に英語を自然に話せるようになった。一方で、文法面には依然として課題が残っていると感じており、帰国後も継続的な学習が必要であると認識している。それでも、コミュニケーション能力自体は大きく向上したと実感している。

ホームステイでの生活は非常に充実しており、特にコフスハーバーでの滞在は、日本での生活と比べて多くの刺激を受けるものであった。強い日差しの中でプールや水泳を楽しみ、森林探索では現地の植生や生態系に触れ、北海道では体験できないサーフィンにも挑戦することができた。これらの活動を通して、現地の文化や生活様式を実感する貴重な機会となった。

今回の経験を通して、今後は日本においてもオーストラリアでの生活のように、積極的かつ柔軟な姿勢で日々を過ごしていきたいと強く感じた。また、英語学習を継続し、本研修で得た経験を将来の進路や職業選択に活かしていきたいと考えている。

最後に、報告担当となったアクティビティについて述べる。サーフィンでは現地ならではの娯楽を体験することができ、森林探検や海洋センターでは、現地の生物や自然環境について学ぶことができた。日本とは大きく異なる気候や環境の中でも、それに順応しながら楽しむことができた点は非常に印象的である。また、他の参加者においても、日本との違いを前向きに受け止め、英語を用いて積極的に情報を得ようとする姿勢が見られた。



## オーストラリア語学研修を終えて

工学部 電気電子工学科 3年

私が研修に参加した理由は、語学力の向上を図るとともに、多文化主義のオーストラリアで、様々な国の人々とコミュニケーションを取り、自分の価値観や視野を広げたいと思ったからである。また、観光ではなく実際に海外の生活を体験できるホームステイができることに魅力を感じ参加した。

本研修では、英語力向上を目的として平日にコフスハーバーの TAFE という教育機関で授業を受けた。授業クラスは自分の英語レベルに合わせて選ぶことが可能で、クラスには様々な国の人がおり、互いの文化、現在の生活などを知ることができ有意義な時間を過ごせた。また、現地のガイドや教授のもと、バリスタ講習や海洋科学センターの訪問、サーフィンなどを体験した。特に未経験だったサーフィンは、英語を通じて新しいスキルを習得する喜びを感じ、貴重な体験となった。

ホストファミリーとの生活は、日本との生活習慣の違いに驚くこともあったが、非常に充実したものとなった。当初は上手く意思疎通ができるか不安を感じていたが、完璧な文法でなくとも、「伝えようとする姿勢」を積極的に示すことで、家族も快く耳を傾けてくれ、すぐに打ち解けることができた。放課後は子供たちとボードゲームを楽しみ、休日は海や川へ連れて行ってもらうなど、オーストラリアの雄大な自然を堪能することができた。現地での温かい交流や共に過ごした時間は、私にとって生涯忘れることのない、かけがえのない思い出となった。

予備知識としては持っていたが、オーストラリアはキャッシュレス社会で、スーパーや交通機関の利用、自動販売機で物を購入する際もクレジットカードで支払いが可能で、逆に現金が使えない店なども多々あった。日本に比べ、金融インフラへの依存度が高い分、決済の手間を減らすことができるので効率的だと感じた。

現地での課題は英語の聞き取りだった。話したい内容は単語をつなぎ合わせれば何とか伝えることはできるが、ネイティブの話すスピードについていくのが難しかった。翻訳アプリを通じて会話することは可能だが、円滑なコミュニケーションを行うためには語学力は必要なのだと再認識した。しかし、ネイティブとの会話を重ねていく中で、この表現はこういった場合に使うのかという発見や、実際に真似して使うことで自分のボキャブラリーが少しずつ増えていくことを実感できた。

今回の研修を終えて、もっと多くの人と英語を通じてコミュニケーションを取りたいと思った。たとえ生まれた国が違って、一つの言語を通じてコミュニケーションを取り、新しい人との出会いや発見することに価値を感じた。これからも英語の学習を継続し、将来のキャリア設計に役立てたいと思う。



## オーストラリア語学研修で得た学び

未来デザイン学部 人間社会学科 2年

今回の研修では、語学力の向上を目標に掲げて参加したが、実際にはそれ以上に多くの学びを得ることができた。現地での生活を通して、オーストラリアの自然や文化、人々の価値観に直接触れることができ、日本との違いや共通点を自分の目で実感することができた。ホストファミリーとの生活や放課後の交流を通して、教科書では学べない日常の中の文化や考え方に触れたことは、とても大きな経験となった。ステイ先はとてもあたたかく、日本への関心が強い家庭で、ホームステイの受け入れにも慣れていたので、安心して生活することができた。放課後にはビーチに連れて行ってもらったり、子どもたちとプールで遊んだり、ゲームや映画を楽しんだり、日常生活の中で多くの思い出をつくることができた。

また、英語でのコミュニケーションに対する不安はあったものの、実際に積極的に話しかけることで、自分の思いは伝わるという実感を得ることができ、自信や積極性の面でも成長することができた。

さらに、学校では他国から来た留学生と共に学ぶ中で、自分の語学力の課題を実感すると同時に、より高い目標を持つきっかけにもなった。このような経験を通して、語学だけでなく、多様な価値観を受け入れる柔軟さや、自分から行動することの大切さを学ぶことができたと感じている。

この研修で得た経験は、将来の進路を考える上でも大きな意味を持つと感じている。現時点では将来の明確な目標は定まっておらず、今回の研修を通して将来のヒントを得られたらと思い参加したが、日本ではできない経験や、様々な視点に触れたことで、自分の可能性や選択肢の広がりを実感することができた。英語を通して人とつながることの楽しさや重要性を実感したことで、今後も語学学習を継続し、さらに自分の世界を広げていきたいと考えている。また、今回の経験で得た気づきや成長を大切に、将来自分のやりたいことを見つけた際に活かしていきたい。



## オーストラリア語学研修を終えて

未来デザイン学部 メディアデザイン学科 3年

オーストラリア語学研修に参加した理由は、学生であるうちに海外での経験を積みたいと考えたためである。私はこれまで海外に渡航した経験がなかったため、この機会に実際に海外へ行き、自分の目で現地の生活や文化を感じてみたいと思った。また、研修はホームステイ形式であるため、現地の方々と生活を共にすることで観光では得られない生活や文化を体験できる貴重な機会であると考え、参加を決意した。

研修を通して、英語力の向上だけでなく、オーストラリアでの生活や文化への理解を深めることができた。ホストファミリーをはじめ、ショッピングモールの店員さんなど現地の方々はとても温かく接してくれたため、積極的に英語でコミュニケーションを取ろうとする姿勢を持つことができた。一方で、自分の英語力の乏しさを強く実感する場面も多くあった。単語のスペルなどの知識はあっても、実際の会話になると現地の英語を学ぶ学生の方が圧倒的にスムーズに話しており、うまく受け答えができないことにもどかしさを感じた。この経験から、実際に使える英会話力を身につけたいという思いがより一層強くなった。

また、2週間の研修期間中には、日本ではなかなか経験できない多くの活動を体験することができた。森の散策やサーフィン、ホストファミリーとのキャンプ、ビーチドライブ、パーティなど、どれも新鮮で印象に残っている。日常生活そのものがこれまでとは大きく異なり、異文化の中で過ごす貴重な時間となった。さらに、動物と触れ合う機会も多く、これまで動物に触れるのが怖かった自分にとっては大きな変化であった。これらの体験を通じて、世界には多様な食文化や自然環境、生活様式があることを実感し、自分の視野が大きく広がったと感じている。

この研修での経験は、私にとってすべて宝物だ。異なる文化の中で生活したことで、物事を柔軟に捉える力が身についたと感じるとともに、新しいことに挑戦することの大切さを実感した。研修前は不安も大きかったが、終えてみると参加して本当に良かったと強く思う。今後はこの経験を生かし、英語学習にさらに力を入れるとともに、さまざまなことに積極的に挑戦していきたい。

今回、実際に2週間海外で生活したことで、海外に対する心理的なハードルは大きく下がった。不安があってもまずは挑戦してみることの重要性を実感した経験であり、今後の学びや将来に活かしていきたい。



## オーストラリア語学研修報告書

未来デザイン学部 メディアデザイン学科 3年

日本から遠く離れたオーストラリアへ行き、全く異なる言語や文化の中で2週間ホームステイをするというのは、私にとってかなりハードルの高い挑戦でした。ですが、2年生で時間にも余裕があったし、こんな貴重な経験ができるチャンスは今を逃せばもう無いような気がしました。そんな思いから、勢いに任せて応募したのが今回の研修に参加した経緯です。

一番の不安要素は、やはり英語でした。語学研修なので周りにペラペラな人はいないし、勉強しに行く立場なのは分かっていましたが、それでもちゃんと伝わるか、聞き取れるかと不安で仕方ありませんでした。ですが、結論から言うと全然大丈夫でした。もちろん言いたいことが言えなかったり、会話が噛み合わなかったりすることもありましたが、現地の皆さんは私の単語を繋ぎ合わせただけのぎこちない英語でも、笑顔で聞いて会話してくれました。

そこで気づいたのは、完璧である必要はないということです。今まで英語を使う機会といえば学校のテストくらいで、常に点数をつけられ、間違いを直されてきました。私が自信を持てなかった理由はそこにあったのだと思います。日本語でさえ全然使えてないのに、何を怖がっていたんだろうと開き直れたことで、さらに自信ができました。それに気づいてからは、ホストファミリーに自分から話しかけたり、英語クラスでも積極的に発言したりできるようになりました。

また、言語だけでなく文化の違いを実感できたのも大きな収穫でした。私は普段、三食のバランスを考えて食べるようにしていて、朝晩はご飯とお味噌汁におかずを数点…というスタイルです。ところがホストファミリーは、朝はシリアルだけ、夜も一品料理を作ったらそれでおしまい。毎日しっかり用意する日本とのギャップにはかなり衝撃を受けました。(おいしかったです。)

放課後のショッピングモールに何度か行く機会がありましたがそこでも驚きがありました。17時頃になると多くのお店が閉まり始めたのです。日本人は働きすぎとよく言われますが、その理由が初めて分かった気がしました。

ここには書ききれないほど、今回の研修では多くの気づきや成長がありました。勇気を出して行って本当によかったと思える時間になりました。この旅を糧にしてこれからも色々なものを見て、面白い経験を重ねていければと思います。



## オーストラリア語学研修 報告書

保健医療学部 理学療法学科 4年

### ○参加した理由

海外に興味があり学校で募集している海外研修を見つけました。オーストラリア研修を選んだ理由としてはホームステイに魅力を感じ、自分で行く海外旅行では経験できないためこの研修を通して経験してみたいと思いました。また、2週間という長い期間海外に滞在できる機会もなかなかないと思ったので参加したいと思いました。

### ○研修で学んだこと・身についたこと

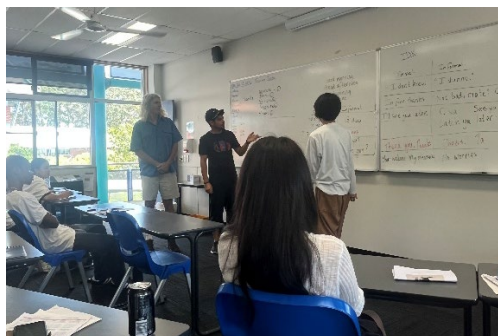
英語については授業やホストファミリーとの会話を通じて徐々に聞き取れるようになったと思います。自分は英語のスキルが上がったというよりは自分の伝えたいことを伝える力や様々な国や文化の方々とコミュニケーションをとることで日本とは異なる文化などについてより知識や理解が深まったと思います。また、母国から離れて2週間滞在することに不安もありましたが、いつもと違う環境で新しい友達や家族と過ごすことで自立した生活を送ることができたと思いますし、新しい環境に適応し、対応していく力が身についたと思います。

### ○今回の研修の経験を今後どう生かしていくか

今回の研修で言語が異なる方々とのコミュニケーションを通じて学んだことを今後海外旅行に活かしたり、仕事などにも活かせる機会があるといいなと思いました。また、自分の慣れていない環境で生活することや異文化を知ることで自分の経験値や価値観が広がったと思います。今後の人生で国内でも国外でも様々な人がいることを理解し、考え方や価値観の異なる方々とも積極的に関係を築いていきたいと思いました。また、今回の研修を通してより海外に興味がわいたので今後は海外旅行などを通して様々な経験をしていきたいなと思いました。

### ○英語クラスについて

英語クラスはレベルに合わせてクラスが分かれていたので自分の英語力にあったクラスで授業を受けることができます。また、様々な国の英語を勉強しに来ている方々が集まっているので一緒に英語を学ぶことができます。日本の授業でやっているような文法などが中心ではなく、グループワークやゲームを通して英語を学ぶ機会が多く、楽しみながら英語を使っていく授業が多かったと思います。



## オーストラリア語学研修で学んだこと

保健医療学部 看護学科 2年

オーストラリア語学研修では、オーストラリアにおける学習姿勢や生活文化の違いについて多くの学びを得ることができた。特に印象的であったのは、年齢や生活背景に関わらず、多様な人々が強い意欲を持って学習に取り組んでいる点である。実際に、子育てをしながら通学している人や、仕事と両立しながら学校に通う人など、さまざまな立場の学習者が存在していた。彼らは限られた時間の中でも主体的に学ぶ姿勢を持ち、「学びたい」という明確な意思のもとで行動していることがうかがえた。また、授業中の態度にも日本との違いが見られた。現地に住む学生は、自身の英語が文法的に正しいかどうかを気にして発言しないのではなく、積極的に発言し、自分の考えを伝えようとしていた。その姿勢からは、言語を正確に使うこと以上に、伝えることを重視する価値観を感じることができた。このような環境に身を置いたことで、やってみたいことは失敗を恐れずに挑戦するという重要性を実感した。さらに、オーストラリアの生活文化として特徴的であったのが、朝活の習慣である。朝5時にはすでにカフェが営業しており、多くの人々が朝の時間を有効に活用していた。また、同時期にワーキングホリデーで滞在していた香港出身の人に、早朝に海まで連れて行ってもらい、日の出を見に行く機会があった。その際にも、多くの人々が同様に朝日を見に訪れており、早朝の活動が日常的に根付いていることを実感した。一方で、夜は比較的早い時間に就寝する人が多く、生活リズムが整っている点も特徴的であった。これらの経験から、オーストラリアの人々は自分の時間を大切にしながら、学びや生活の質を高めていることが理解できた。本研修を通して得た主体的な学習姿勢や時間の使い方に対する意識を継続し、今後の日常生活に生かしていきたい。



## オーストラリア語学研修を終えて

未来デザイン学部 メディアデザイン学科 4年

私が今回オーストラリア語学研修に参加した大きな理由は、英語を身に付けたかったからです。また、時間が取れる今のタイミングしか行けないのではと考えたため、行くことを決意しました。

TAFE では中国やミャンマー、インドネシアなど様々な国の人と交流しました。最初は簡単な言葉も聞き取ることができず悔しかったですが、耳がだんだん慣れてくると理解することはできたので嬉しかったです。ですが相変わらず文で話すことはできませんでした。また、たった数回しか会っていないにもかかわらず、名前を覚えて呼んでくれたのは本当に嬉しかったです。



ホームステイ先の人々はアクティブだったので様々な場所に行きました。トランポリンがあるジムに行ったりキャンプに行き1泊したり。他にもカードゲームで遊んだりプールに入ったり、親子丼を作って料理をふるまうなど、ととても楽しい日々を過ごしました。



実際に主言語が英語の中に身を置くことによって英語が話せるようになったかということ、当たり前ですが2週間では無理でした。しかし、リスニング力は日に日に向上しているように感じましたし、単語でも理解してくれる優しい人たちばかりだったので会話をすることもできました。分からないことも多かったです。霧囲気で理解するなど意外にも乗り越えることができました。これらのことから、実際の英語に触れたりアウトプットしたりすることはとても大事だと強く感じました。

今回の研修を通して、英語を話すことの抵抗感は少なくなりました。ですが、いざ話すとなると単語が出てこないことが多かったので、事前にもっと勉強しておけばよかったと思いました。また、私は翻訳を使用しないようにしていたのですが、英語が話せないからと話しかけることを躊躇してしまっていたので、もっと翻訳を使用してコミュニケーションを取っても良かったなと後悔しました。

私はこの経験を通して、オーストラリア以外の国にも行ってみたいという思いが湧きました。そして多くの文化に触れ、たくさんの人と交流したいと思っています。そのためにも、今回オーストラリアで学んだことや経験したことを忘れず、英語を学び続け、日常生活の中でも積極的に英語を話していきたいです。